



令和4年度

学校だより

伸びよう 豊かに たくましく ~学ぶ喜びにあふれた学校をめざして~

令和4年6月28日

横浜市立高田小学校

7月号

暑い夏に

校長 赤坂 桂

急に暑さが増し、一気に夏の到来を感じるこの頃となりました。この2年間、実施することができなかった水泳学習ですが、今年度ようやく再開することができました。

プールを楽しみにしている子供たちの声がたくさん聞こえてきます。まだ泳ぎ慣れていない子供たちが多いので、焦らず慎重に安全第一で学習を進めていきます。

低学年はプールの使い方、水遊びのみ行います。潜ったり泳いだりはしません。3年生以上は泳ぎますが、水慣れや潜る・浮く、泳ぐなどを中心にゆっくり学習を進めます。また、今年度は安全確保のためスイミングスクールのコーチにも指導のお手伝いをお願いしています。綱島駅近くにある「ウォーターメイツスイムクラブ」の方々です。ほとんどの日程で1名ずつ来てくださる予定です。ご承知おきください。

さて、私たちにとっては夏が来るとプールで泳ぐのは当たり前、学校にプールがあるのは当然のように感じますが、外国から見るとこんなにプールがある国は珍しいようです。現在、全国のおよそ9割の小中学校にプールが設置されています。日本は元来、海や川に囲まれ、泳ぐ機会が多かったことに加え、戦後のオリンピックで「フジヤマのトビウオ」と呼ばれた古橋選手が活躍し、水泳人気を広まったことがあります。今でも次から次へと水泳スター選手が登場していますし、子供たちの習い事の人気は毎年上位に入っています。運動負荷が適切で、心地よい水泳は好まれるのでしよう。

もう一つ、学校で水泳を学習するようになった理由に「安全」があります。プールが普及する前は毎年、海や川でおぼれてしまう事故が多く発生していたそうです。全国小中学校にプールが設置され、水泳が授業に取り入れられると、年々、水難による事故は減少してきています。自分の泳力や水の中の危険を知っておくことは命を守るために大切な学習です。水の中でパニックを起こさないためにも、まずは安全なプールで浮いたり潜ったりしながら呼吸の仕方を身に付けたいものです。

あとひと月ほどで夏休みとなります。子供たちには自然と触れ合い、興味や好奇心を広げる機会としてほしいです。安全に気を付けて、暑い夏を楽しく過ごしてください